

令和5年度宮崎県幼児教育センター運営委員会（第1回）議事概要

1 日時

令和5年4月24日（月） 午前10時から午前11時30分まで

2 場所

宮崎県防災庁舎5階防52号室

3 出席委員（13名）

柏田委員、田中委員、瀬之口委員、折田委員、渡具知委員、押方委員
屋敷委員、児玉委員、坂本委員、岩瀬委員、久松委員、柳委員、高橋委員

4 議事概要

（1）説明（事務局説明）

宮崎県幼児教育センターの運営等について【資料1、2】

（2）協議の主な発言

ア 研修について

- ・発達障がいや知的障がい等の疑いのある園児への対応、相談窓口や関係機関との連携、保護者対応などの理解を深められるような研修があるとよい。
- ・公開保育等を実施する園への見学や協議は、保育者の資質向上につながると思う。そのため、保育参観ができる研修を増やしていくとよい。
- ・受講者が研修を受講しやすくするために、オンラインやオンデマンドで実施するなどの工夫をするとよい。

イ 訪問支援（園内研修）について

- ・4月に幼児教育センターが開設されたばかりであり、各幼児教育・保育施設が幼児教育センターの機能や幼児教育スーパーバイザーの訪問支援などを十分理解しているわけではない。そのため、研修や会議等を通じて周知していく必要がある。
- ・全日本私立幼稚園幼児教育研究機構のECEQ®（イーセック）という公開保育のプログラムがあり、県の幼稚園連合会では、毎年、県内の幼稚園で公開保育を実施している。このプログラムを効果的に実施するために、幼児教育スーパーバイザーと連携できるとよい。

ウ 幼保小連携・接続について

- ・延岡市は、令和3年度・4年度に県の幼保小連携・接続推進整備事業の指定地域として、代表者を集めた会議や実務者を集めた担当者会を開催してきた。これまでの取組については、今後も継続させ、幼保小連携・接続を推進していく。
- ・文部科学省から「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」が示されたが、カリキュラム編成がゴールではなく、カリキュラム編成・実施を通じて、幼保小が協働し、幼保小の先生と一緒に振り返って評価し、改善・発展させていくことが大切である。

エ 市町村の幼児教育推進体制について

- ・市町村の担当課では、幼児教育・保育の専門的な担当者がいないことが多いため、幼児教育アドバイザーの配置や教育委員会と首長部局との連携を含め、幼児教育推進体制の整備について検討していく必要がある。
- ・幼児教育センターが、幼児教育・保育施設の研修等の相談窓口の中心になり、各関係機関につなぐなど、連絡調整役として機能するようになることを期待したい。